じん肺・アスベスト被災者救済基金ニュース

NO.25
発行者
じん肺・アスベスト被災者救済基金
〒238-0011
神奈川県横須賀市米が浜通り1-18-15
オーシャンビル3F
TEL/FAX:046-827-8570
2023年1月31日発行

正木光さんの思い出

青木直史（全造船関東地協労組委員長）

故正木光さん

1 住友との闘い

正木光さんは、1950年4月1日、定期採用で養成工（横須賀・三浦地区で受験先としては当時の最難関）として前身の浦賀船渠（ドック）に入社しました。職場は電装（電気艤装の略）で、組合の代議員や職代などを務め、職場でも優秀でしたが、積極的に組合活動をしてきました。

しかし、1968年ごろから「何であろうと生産性を妨げるものは全て排除していく」との住友イズムが顕著になり、浦賀分会組合員は、「職場での協調性がない」と決めつけられました。そして、結果的に昇格差別闘争に発展していきました。正木さんは、毅然として分会の中心として会社の差別攻撃と闘ってきました。

正木さんの職種の電装とは基本的には、艤装船内での電気配線工事及びそれに付随する工事でした。正木さんは職歴申立書などで、船内での混在作業のため、大量の石綿粉塵に曝露したと述べています。

2 組合の書記・じん肺基金事務局等

正木さんは、現役時から浦賀分会だけでなく、旧全造船機械本部中央委員や関東地協副議長など歴任し、本部傘下労組の指導や地域労組との連携・共闘を進めてきました。また、正木さんは1995年6月定年退職後、組合書記となって、毎日の書記業務の他にも、同時に1995年度から2002年度までかながわシティユニオンヨコスカ執行委員長（代表を含む）、2003年度から2019年度まで、同ユニオン特別執行委員として、ユニオン活動、地域の労働相談等にも活躍してきました。

さらに、米海軍横須賀基地石綿裁判勝利解決後に発足したNPO法人「じん肺・アスベスト被災者救済基金」には、当初から事務局・会計等を担ってきました。その後2006年から、2020年まで、同基金理事などを歴任してきました。特にアスベスト健康被害の問題に対しては、裁判資料作成への協力や住友に対する企業上積み要求の団交出席、抗議行動など精力的に取り組んできました。また、住重の下請け遺族や元第二組合員の人に対しても笑顔を絶やさず、企業上積み交渉など自らの現場作業の経験をもとに、親身になって具体的に証言するなどしていました。

3 胸膜中皮腫に罹患

活動に精力的に取り組んできた正木さん。そしてアスベスト健康被害救済に取り組んできた正木光さん本人が、突然、悪性胸膜中皮腫に罹患されるとは、まさに晴天の霹靂でした。病気の進行が早く、残念ながら正木光さんは、2021年5月に亡くなりました。私たちは、故正木光さんが残してくれたアスベスト被害救済の業績を引き継ぎ、アスベスト罹患の撲滅まで、運動を進めていく必要があります。

日立パワーソリューションズ アスベストユニオン

1961年から99年まで日立パワーソリューションズ（旧日立田浦）で溶接工として働き、退職後中皮腫発症、2016年労災認定された小山春生さんは、2017年1月にアスベストユニオンに加入。日立と団体交渉を行ったが、ラチがあかず、横浜地裁横須賀支部に提訴、21年8月に、損害賠償2200万円の判決が確定、全面勝訴となった。

しかし、小山さんの強い思いは、退職後のアスベスト被害についての補償制度の新設。判決はその時点までの被害補償であり、それ以降の分も含めて団体交渉の開催を要求。しかし、日立は団交を拒否。このため21年12月に神奈川県労働委員会に不当労働行為の申し立てを行い（その前日、小山さんは中皮腫のため死亡）、労働委員会の斡旋の中で、和解協議がむすばれた。中身は、日立はアスベスト被害についての「補償制度の改正にあたり、提案があった場合は真摯に検討」し、小山さんの死亡に関する補償については協議を行う、というもの。ではと、ユニオンは「団体交渉でこの問題を協議するように」と求めた。ところが日立は、「和解協定書には団交をする、とはなっていない」さらに対面での協議もしない、とわけのわからない回答。しばらく「こぜりあい」が続いている。

今年度は、日立造船、三井造船、住友重機などのアスベスト被害についてのケースが交渉で解決。この他に今後、JFE、IHI、などの大手企業との交渉で解決が予定されている。

（報告　早川）

天明先生を偲んで

神奈川県勤労者医療生活協同組合の理事長の天明佳臣先生が、2022年5月30日に逝去されました（享年90歳）。

1. 天明佳臣先生

港町診療所の所長でもあった天明先生は、多彩な活動をしてきました。出稼ぎ労働者健診、外国人医療や労災職業病、そして、じん肺・アスベスト問題等々の取り組みです。

1982年5月読売夕刊「石綿肺がんの恐怖　5年で39人死んでいた　横須賀基地や造船関係」の報道がアスベスト問題の始まりでした。港町診療所、神奈川労職センターはこれに着目し取り組みを開始。港町診療所が横須賀で行ったじん肺石綿健診、神奈川労職センターが行ったベース退職者の掘り起こし等、天明先生はこれらの取り組みの中心にいました。その後、石綿対策全国連が結成され、天明先生は2003年同全国連代表委員、2004年11月の世界アスベスト東京会議の組織委員長を努めました。

2. 天明先生を偲ぶ会

偲ぶ会は、11月12日、横浜の波止場会館で行われました。医療生協の新理事長の澤田貴志さんが司会となり、5人の方から話を聞くというスタイルで行われ、①出稼ぎ農民の健康維持への活動について、②横須賀からアスベスト問題を世界的課題に、③港湾病の取り組みと労災職業病センターの活動、④移住労働者問題の取り組み、⑤医療生協を支え続けた40年余、と題してそれぞれ天明先生の現場での活動に触れながらの貴重なお話でした。

この他に、随時、会場からも発言があり、偲ぶ会の最後には、天明先生の長男・天明晃太郎さんからあいさつがあり、内容の濃い偲ぶ会となりました。（報告　安元）

旧国鉄・JR大井工場アスベスト裁判

小池敏哉（旧国鉄・JR大井工場アスベスト裁判を支援する会）

故黒沼義則さん

1 大井工場アスベスト裁判とは

この裁判は、原告、黒沼義則さん（故人：2021年1月逝去・当時80歳）が、旧国鉄・JR大井工場で電気・ガス溶接等の作業で43年間働き、石綿粉じんに曝露、定年後の2017年12月に肺がんを発症したため、国鉄の権利義務を承継する鉄道運輸機構とJR東日本を相手取り2020年7月損害賠償を求めて起こした事件です。

国鉄・JR東日本の鉄道車両には、アスベスト含有の塗料が用いられていた他、アスベストが各機器に使用されており、車両の検修作業ではアスベスト粉じん等を発生させていました。その上、溶接工だった黒沼さんは、アスベストを直接使用して作業をしていました。

黒沼さんは2017年12月に肺がんを発症、2019年4月品川労基署から労災認定を受けました。

国鉄・JR東日本は、原告らにアスベストに曝露しないよう環境改善や、石綿の危険性に関する教育・指導、石綿の代替品を用いる措置などを取るべきでしたがこれらをいずれも怠っていたことから裁判提訴となったものです。

裁判は、提訴以来2年半が経過し、口頭弁論が11回、進行協議が1回行われてきました。

2 被告の主張

被告旧国鉄とJRの主張は、「肺がん発症は喫煙が原因、原告は1日20本35年間も喫煙」「医学的見解では喫煙が肺がん発症リスク2倍だ」「乾燥肺1g中石綿5000本が認定基準、原告は2700本程である」「肺中1gの石綿2700本は少量、石綿を使用したのは実際2か月程度」等と主張しています。

また、「現場は換気扇等の装置や必要な排気を行っていた」「車両のアスベストは除去していた」「従来型鉄製車両から腐食しない車両へ置き換え、修繕は減少していた」「粉塵等が発生する気吹き作業は別棟で実施し、作業場はばく露環境ではなかった」「防塵マスク着用を指導していた」などと事実に基づかない言い訳や詭弁を繰り返して来ました。

11月30日の裁判では、被告の準備書面で、原告側が国鉄及びJRの鉄道車両の石綿使用状況や使用時期について明らかにするよう求めたところ「調査したが資料は見当たらない」などと不誠実な回答をしています。

さらに、これまでの主張に加え、「死亡したのはコロナが原因、喫煙が影響したもので石綿は影響ない」「労基署が死亡原因に石綿肺があり労災による死亡とした医員の判断は誤り」と国の死亡判断を否定する驚きの主張を展開しました。

3 勝利に向けて

この裁判は、原告だけの問題ではなく、旧国鉄で働いていた労働者、現在のJRと関連労働者全体に係るものであり、公正な補償と安全な職場環境を求めるものです。

国労本部や国労各機関、国鉄・JR退職者、地域の支援組織、支援者など多くの賛同を得ており、毎回の裁判傍聴には20名ほどが集まり、裁判の状況を伝えるニュースも15号発行してきました。

これまで、原告・被告双方が書面による主張と反論の繰り返しでしたが、2023年2月1日に口頭弁論が予定されており、その後、被告側の主張は、相変わらず事実に基づかない苦しい言い訳と詭弁に終始しており、こちら側が優勢で終盤戦に突入という状況です。

アスベストは「静かな時限爆弾」であり、今後も鉄道退職者、JR社員に健康障害をもたらす恐ろしい職業病です。埋もれた被害者の掘り起こしと、今後の被害者救済を進める上でも、本裁判の持つ意義は極めて大きく、勝利判決を勝取るまで引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

2022年なくせじん肺全国キャラバン

第33回目となるじん肺キャラバンは、10月に全国8ブロックでの諸行動が取り組まれま25日に東京に集結、そして、10月3日～5日には、アスベスト被害全国一斉電話相談会が行われました。

1 じん肺キャラバン神奈川行動（10月8日）

2022年10月8日に、神奈川県建設労連等じん肺キャラバン横須賀実行委がじん肺キャラバン神奈川行動に取り組みました。この行動は10時から神奈川労働局への要請行動として取り組まれました。

神奈川労働局へは重点課題として昨年に引き続き「携帯用アスベストアナライザー（材料分析装置）を積極的に使用するよう」要請しました。ちなみに、労働基準監督署へのアナライザーの貸し出しは、今年度はこれまでに2件ということでした。

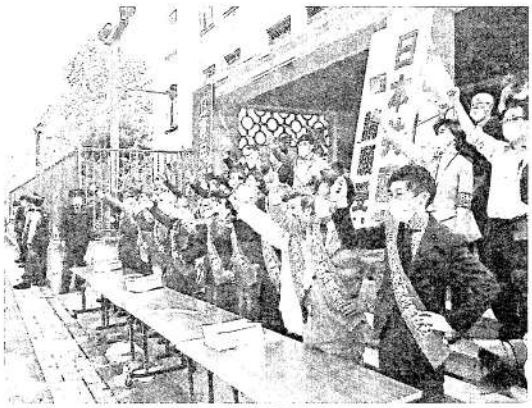
2 じん肺キャラバン東京終結行動（10月25日・26日）

東京集結行動は2022年10月25日、26日に取り組まれました。25日は、昼の厚生労働省前行動の後、14時40分から衆議院第一議員会館大会議室で、「建物改修解体問題シンポジウム」が行われました。

シンポジウムは、4つのテーマで報告がありました。①「解体工事現場の事前調査と状況」②「アスベスト規制をめぐる最近の国際動向」③「石綿関連法規改正と今後の課題」④アスベスト対策の自治体条例補助制度」等、重要な問題提起でした。

26日には、午前10時から、じん肺弁連の会議室でズームを利用した厚生労働省への要請（間質性肺炎の問題等）が行われました。

また、その後日比谷公園の霞門に集合し、12時から国会請願デモが取り組まれました。（安元）



じん肺キャラバン

活動日誌

2022年

一月一三日　じん肺基金事務局会議
二月　五日　じん肺キャラバン実行委員会
一五日　大井工場アスベスト裁判
一六日　アスベストセンター
三月一〇日　じん肺基金事務局会議
二六日　じん肺キャラバン実行委員会
四月一四日　じん肺基金事務局会議
五月二六日　じん肺基金理事会
六月一六日　じん肺基金事務局会議
一八日　神奈川県勤労者医療生協総代会
神奈川労災職業病センター総会
一三日　じん肺基金総会
七月　九日　石綿対策全国連総会
一一日　じん肺基金事務局会議
一五日　横須賀労働基準監督署交渉
八月　四日　神奈川労働基準局交渉
九月一一日　大井工場アスベスト裁判
石綿対策全国連運営委員会
一二日　じん肺基金事務局会議
一〇月　七日　じん肺キャラバン神奈川行動
一五日　じん肺キャラバン東京集結行動
一六日　じん肺キャラバン国会請願行動
一一月　一日　じん肺基金事務局
三〇日　大井工場アスベスト裁判
アスベストセンター拡大事務局
一二月　七日　石綿対策全国連運営委員会
一二日　じん肺基金事務局会議